

令和2年度 普及・啓発部会について

1. 部会長の選任について

部会長：守矢委員

副部会長：大川委員、鈴木委員、青柳委員

2. 令和2年度の部会のテーマはアドバンス・ケア・プランニング

3. 在宅医療・介護連携パンフレットの配布と配布先の開拓について

＜配布＞ 各場面において配布する工夫。催し物・事業等の際、配布物に加えられないか検討

- ・ 市報等、市の広報誌と一緒に各家庭に配布する。65歳到達者への郵送物（いきいき）に同封する。
- ・ 幼稚園、小学校、中学校に配布し、家族、孫からお知らせしてもらう。
- ・ 市内病院スタッフに配布（退院支援しているMSWからは分かりやすいと好評であるとのこと）。
- ・ 関連のある事業の際に配布。骨検診や支援センター事業等。おいしく元気アップ等の介護予防事業。
- ・ 障害児・者の親が高齢者の場合もあるので、障害関係の事業所で利用者に配布してもらう。

＜配架＞ 手に取りやすい配布方法

- ・ 市内の郵便局、銀行、病院、薬局など待ち時間のある場所の待合に置かせてもらう。

↓

武蔵野市在宅医療・介護資源マップアンケート実施時に配架できる事業所等を募集。1,518部配布。

- ・ 高齢者の集まる場所に置く。（大型）スーパーやドラッグストア等。
- ・ 課の窓口へ配架する。

＜情報発信＞

- ・ 各現場で情報発信している媒体の中にPDF版を含めコンテンツとして組み込んでもらう。
- ・ 市報で①パンフレットの配布場所やホームページ（PDF版）を紹介、②まとまった部数の希望を受付。
- ・ デジタル媒体の活用を検討。

4. ACP（2を参照）のテーマで従来の市民セミナーに代わり、どのようなことが出来るか

＜オンラインを活用＞

- ・ オンラインによるセミナーの開催、セミナー内容をDVD化して貸し出しする。
- ・ 動画配信による講演会。
- ・ ケーブルテレビでの放送。
- ・ リモートで話し合いの場を設ける。
（他者の意見や考え方を聞くことで、さまざまな選択肢や気持ちの安らぎを得られる場として）

（課題）

- ・ 市民セミナー参加者の大部分を占める高齢者は、「オンライン帰省」等で、パソコンの使用できる方が増えているが、苦手な人もいるのでオンライン対応が難しい。（問い合わせ対応が必要かもしれない）

＜対面による実施＞

- ・ 小規模でも対面した形で、直接知る・考えるような場を調整することができるか。
- ・ 趣味のサークルに少し時間をとっていただき、話をする。病院や薬局で話をする。
- ・ 密にならない環境での少人数での開催。

＜冊子・リーフレット作成＞

- ・ ACPの冊子を作って配布。
- ・ 対談の紙面配布など（実施形態を変えてでも開催したほうがよい）。
- ・ 「アドバンス・ケア・プランニングとは」等、基本的なことを簡単にまとめたリーフレットを作成。

＜その他＞

- ・ 市役所1F広場にACPのブースを作る。
- ・ 市民対象にアンケートをとる。（パンフレットにアンケートを入れて返信用の封筒で返信してもらう）
- ・ アンケートを集計して認識度を確認する。→アンケート結果を広報誌にのせる。
- ・ これまでのACPに関する武蔵野市や市医師会等での取り組みを振り返り、まとめたものを市報や市HPに掲載し、市民にACPについてもっと知る機会を設けて啓発を行う等。
- ・ 市HPでの情報発信。
- ・ 都作成の普及啓発用リーフレット・冊子等を市民・医療従事者への配布。

5. 小規模セミナー(部会員向け)についての意見

＜開催方法等＞

- ・ WEB会議ツールを使用。
- ・ 対策を取ったうえで実施してよいと思うが、オンラインは検討すべき。

＜内容について＞

- ・ エンディング支援の出前講座を実施してほしい。
- ・ ACPの活用についての事例検討。コロナ禍において「今できること」「今後していく必要があること」について意見交換。

6. その他

今回は、オンラインによる部会で小規模セミナーを実施予定。